



編集後記

これは当方の浅はかな、卑しき性格のせいだと思いが、マイナンバーカードであれ、アベノマスクであれ、さらにオリンピックも然り、どうも昨今の我が国のさまざまな事柄が、悪しき資本主義に侵食されているように思えて仕方がない。つまり、物事の判断基準が、「儲かるか儲からないか」という視点に集約されているように思えるのだ。

古来より、世のため、人のため、という言葉があるが、どの時点からかは定かではないが、何かをしようとするときにそうした観点からの評価は影を潜めているように感じられ、誰が儲かるのかが気になって仕方がない。

マイナンバーカードで不備や人為的なミスがあつた場合に、それを修正すべく依頼された企業は、当然ながらその作業にかかわる費用を計上し請求するはずだし、アベノマスクにしてもそれを納品したメーカーは莫大な利益を計上したはずである。ましてオリンピックともなれば、

桁違いの予算が計上される。そこに群がった亡者たちの振る舞いと搾取の在り様は、正視するに堪えないものだった。

1997年には、もともと事業支配力の過度の集中の防止を具体化するものとして独占禁止法で禁止されていた持株会社の設立等が、経済社会の現実を踏まえ、解禁されるといふ法改正も行われ、さらに独占禁止法の適用除外制度についても見直しが行われた。

こうして数多く生まれた持株会社の基本的な目的は、株主への配当をいかに拡大するかであり、そのためにいかに株価を高値にできるか、維持できるかというものであり、多くの場合、研究開発や人材への投資、さらに社会貢献といった観点からの未来に向けての展開が、必ずしもそれまでのものとは同等とは言えない事態も起きているように思える。

もちろんSDGsなどの影響もあつて、企業の社会貢献や未来への投資はないわけではないが、いささ

か儲け至上主義的な傾向が強まっているように思えてならないのだ。

企業というのは、NPO（特定非営利活動法人）ではないのだから、あくまでも利益を追求するのは当然なのだが、昨今のテレビ番組同様に、いささか「えげつない」傾向を感じてしまうのだ。

そうした番組に登場するお笑いタレントたちの「うめえじゃん」「ひでえなあ」といった、聞くに堪えない言葉遣い同様に、日本の社会全体の品位、あるいは品格が、いささか悪しき方向に転落しているように思えるのだ。

現在の日本の姿には、かつてエコノミックアニマルと呼ばれた、高度成長期のなりふり構わぬ姿とは違つた、妙に余裕のない、野卑な印象を感じてしまうのだ。

「武士は食わねど高楊枝」ではないけれど、どこかできちんと「やせ我慢」のできる国であつていただきたいと願う。

(溪)

月刊 公論

9月号 第56巻9号

令和5年9月1日発行 毎月20日発売
本体価格1,100円(税込) 送料87円

発行人 大中 吉一 編集人 林 溪清
発行所 株式会社財界通信社
〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町10-12 ボナフラワービル
TEL.03-5379-5611(代) FAX.03-5379-5616
印刷所 株式会社広済堂ネクスト
取次店 日本出版販売/楽天ブックスネットワーク

- 直接ご購入をご希望の方は、本社までお問い合わせ下さい。
- 万一、乱丁、落丁などの不良品がございましたら、お取り替えいたします。